



海女漁(鳥羽市)

平成26年三重県議会定例会 2月定例会会議 少子化対策や、中小企業・小規模企業の振興などについて議論

平成26年度一般会計予算や平成25年度一般会計補正予算のほか、三重県農地中間管理事業等推進基金条例案や三重県がん対策推進条例案などを審議しました。

代表質問の主な内容(2ページ)

- ・小規模企業を支えるために
- ・地域の実情を踏まえた少子化対策を

一般質問の主な内容(2~5ページ)

- ・県職員に対する少子化対策の取り組み
- ・中小企業・小規模企業の振興に向けて
- ・新しい障がい者雇用
- ・水産業と福祉の連携による障がい者の働く場の拡大を
- ・車と公共交通機関が共存できる交通政策を
- ・若者定住奨学金の創設を
- ・熊野古道世界遺産登録10周年を迎えて
- ・海女漁業の継承・振興に向けて
- ・オープンデータやビッグデータによる産業活性化の可能性
- ・沖縄県営平和祈念公園内の「三重の塔」の修復を
- ・少子化対策推進県民運動は価値観の押し付けにならないか
- ・教育委員会制度の改革
- ・孤立が想定される地区への周知・啓発を

本会議審議の結果(6ページ)

主な活動内容(6~8ページ)

- ・議員提出条例 三重県食の安全・安心の確保に関する条例の改正
- ・観光産業に関わる方と現場で意見交換
ーみえ現場 de 県議会を開催(伊賀)ー
- ・政務活動費に関する条例を改正しました
- ・災害に強いまちづくりについて、活発に意見交換
ー第4回政策セミナーを開催ー



みえ現場 de 県議会「観光産業の振興」
(平成26年2月7日)

※詳細は7ページに掲載しています。



第4回政策セミナー(平成26年3月17日)

講師の南部美智代さん
(NPO法人 災害ボランティアネットワーク鈴鹿 理事長)
※詳細は7ページに掲載しています。

- ・広域的課題について意見交換
ー東海北陸7県議会議長会議(鳥羽)ー
- ・小学校で授業を行いました
ーみえ県議会出前講座(松阪・大紀)ー

代表質問

小規模企業を支えるために

中村進一 議員
(新政みえ/伊勢市選出)



問

県内企業の90%を占める小規模企業を支えるため、「三重県中小企業・小規模企業振興条例案」が上程されましたが、実効性のある条例とするため、小規模企業の実態を踏まえた支援を行うべきと考えますが、いかがですか。また、県独自の「みえ中小企業・小規模企業振興推進協議会」については、小規模企業の実態を把握している商工会や商工会議所を活用すべきと考えますが、どのような体制で具体的に何をするのか、お伺いします。



答

条例案では、総合的な相談窓口の設置、商工会などが行う経営相談や経営指導への支援、小規模企業などの連携に対する支援とあわせ、三重県版経営向上計画の認定など、企業の特徴に応じた支援を行う

こととしています。また、推進協議会は、県内を5ブロックに分け、関係団体などの参加のもと、それぞれに目標を定め、進捗管理を行っていきたいと考えています。

その他の質問事項

○少子化対策は現状の課題解決から ほか

地域の実情を踏まえた少子化対策を

永田 正巳 議員
(自民みらい/四日市市選出)



問

少子化対策は、平成26年度の三重県経営方針案で重点テーマとして位置付けられています。

国に要望してきた少子化対策に関する財源措置は、平成25年度補正予算で「地域少子化対策強化交付金」として実現しましたが、このことについて知事の評価をお聞かせください。

また、交付金を有効に活用すべく策定された「三重県地域少子化対策強化計画」では、多くの事業が盛り込まれていますが、その特徴についてお伺いします。



答

地方独自の少子化対策を推進するため、国は約30億円の交付金を創設したことから、一定の評価はできるものと考えます。

また、本県の計画の特徴としては、「子ども・思春期」「結婚」「妊娠・出産」「子育て」のライフステージごとに、働き方も含めた課題と現場のニーズを「地方目線」「当事者目線」で洗い出し、県民の希望が叶えられるよう切れ目のない支援を行うところが挙げられます。

その他の質問事項

○鈴木県政一期三年間の成果と総仕上げに向けた思い ほか



一般質問

県職員に対する少子化対策の取り組み

日沖 正信 議員
(新政みえ/いなべ市員弁郡選出)



問

少子化対策は、行政、企業、地域社会が問題を共有し実践していかなければならず、誰もが身近なところから、地道に粘り強く進めていく必要があります。

知事は三重県という事業所の代表者として、職員に対する出産や子育てなどの支援の取り組みを行わなければならないはずです。職員に対する少子化対策について、知事のお考えをお聞かせください。

答

少子化対策は、県庁でも率先して取り組む必要があります。

平成26年度には、職員が安心して産育休取得ができるよう、節目ごとの所属長面談の実施や、仕事と家庭の両立を応援する職場環境づくりに取り組む管理職を評価する「育ボス」の推進、職員の子どもや孫が職場を見に来る「こども参観」の実施などを検討しています。

その他の質問事項

○三重県中小企業・小規模企業振興条例に基づく取り組み ほか

中小企業・小規模企業の振興に向けて

水谷 隆 議員
(自民みらい／いなべ市員弁郡選出)



問

「三重県中小企業・小規模企業振興条例案」における「三重県版経営向上計画」の認定制度とは、どのような制度なのか、お伺いします。

また、中小企業などの現場からは常に資金調達の難しさをお聞きしますが、本条例の制定を踏まえ、中小企業などに対する資金の円滑な供給をどのように図っていくのか、お伺いします。



答

経営課題の抽出や解決に向けた取り組みなどを、それぞれの段階に応じて計画認定するとともに、課題解決に精通した人材を県内に配置し、商工団体と連携して支援を行います。

また、新たな無担保保証制度を活用した「みえ経営向上支援資金」を設けるなど、資金供給の円滑化を図っていきます。

その他の質問事項
○攻める農政、守る農政 ほか

新しい障がい者雇用

小島 智子 議員
(新政みえ／桑名市桑名郡選出)



問

障がい者雇用の新たな仕組みづくりの中核を担う場として設置するステッパアップカフェ(仮称)は、雇用支援の場として継続していくことが必要であり、先進的な取り組みも取り入れるべきと考えますが、運営主体は誰が担うのですか。

また、だれがそこで働くのか、どのような仕組みを作って一般就労に結び付けていくのかについてもお聞かせください。

運営主体は公募を行い、事業の提案内容を審査して選定します。

カフェで働く障がい者は、「福祉から就労へ」の移行を目指している意欲の高い方々を想定しており、実習訓練などに取り組みむほか、就労後も安心して働くことができ、途切れのない支援が受けられるよう、関係支援機関と連携を図っていきます。



その他の質問事項
○少子化対策に関して ほか

水産業と福祉の連携による障がい者の働く場の拡大

中村 欣一郎 議員
(自民みらい／鳥羽市選出)



問

障がい者の自立支援に向け、働く場の拡大が求められています。農業と福祉の連携をよく聞きますが、漁業にも多くの可能性があると感じています。

県職員の創造的な改善の取り組みを発表する「MIE職員力アワード発表会」において、水産業と福祉の連携についての発表がありました。その内容と今後の展開についてお聞かせください。



水福連携による真珠養殖資材の作製

答

障がい者に担っていただけの作業の洗い出しなどを通じて、志摩地域で、障がい者による真珠養殖資材の作製や鮮魚販売などの取り組みが実現しました。

今後も水産分野と福祉分野との情報共有を強化するとともに、関係機関の協力も得ながら、水福連携についてさらに調査研究していきます。

その他の質問事項
○観光面での大雪災害対策 ほか

車と公共交通機関が共存できる交通政策を

辻 三千宣 議員
(新政みえ／伊勢市選出)



問

伊勢市では遷宮効果により観光客が急増していますが、①パーク・アンド・バスライドの取り組みが渋滞解消に一定の効果をもたらしています。今後の高齢社会や20年後の次期遷宮を考えると、県内各地域のまちづくりを進める中で、車と公共交通機関が適切なバランスで共存できる交通政策を県全域に広めていくべきではないかと思いますが、県の所見をお聞かせください。

答

20年後を見据えた本県の交通に関する方向性を示す「三重県総合交通ビジョン」を策定中であり、地域公共交通の維持・確保や、車と公共交通機関の適切なバランスを図ることを目的とするモビリティ・マネジメントの普及啓発などを、今後の交通政策における重要な課題ととらえ、検討を進めていきます。



直行レーンを走るシャトルバス(伊勢市)

その他の質問事項
○全国学力・学習状況調査の結果に対する県の対応 ほか

若者定住奨学金の創設を

村林 聡 議員
(自民みらい／度会郡選出)



問

人口が流出しやすいタ
イミングの一つが進学で
す。三重県は他県に比べて大学
が少なく、県外の大学へ進学せ
ざるを得ない実情があります。
そこで、若者定住につながる
奨学金の創設を提案します。大
学卒業後に生まれ育った地域に
戻ったり、地域で一次産業に従
事したりすれば、奨学金の返還
を免除するというものですが、
知事のご所見を伺います。

答

県では、より多くの若
者のUターンを促進する
ため、働く場を増やす取り組み
や次代の地域を担う人材育成を
進めています。

ご提案の制度は、県内の尾鷲
市をはじめ全国で
もいくつか先行事
例があり、その成
果や課題を情報収
集しながら、関係
市町と研究してい
きます。

その他の質問事項
○農林水産業の下支えを ほか



人材育成の取り組み

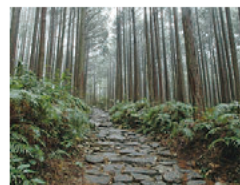
熊野古道世界遺産登録 10周年を迎えて

笹井 健司 議員
(新政みえ／松阪市選出)



問

熊野古道は美しい石畳
や自然景観など、歩く旅
人に多くの感動を与えてくれま
す。多雨地域で古
道を守ってこれら
れたのは、地元の皆
さんのご努力のお
かげですが、保全
活動ボランティア
会員の高齢化や会員数の減少が
進み、活動資金も不足するなど、
さまざまな課題があります。



熊野古道の美しい石畳

答

熊野古道の保全について、県
としてどのように取り組んでい
くのか、お聞かせください。
新たに熊野古道サポー
ターズクラブを立ち上げ、
保全活動に参加いただける人材
の掘り起こしにつなげるとも
に、保全活動経費については、
現在、支援金の増額を検討して
います。

10周年を契機に、各種事業を
市町などで行うことで、熊野古
道の価値を伝え、保全につな
がるよう取り組んでいきます。
その他の質問事項
○農業政策 ほか

海女漁業の継承・振興 に向けて

山本 教和 議員
(自民みらい／志摩市選出)



問

三重を象徴する漁業と
して海女漁業が挙げられ
ますが、年々、海女の数は減り
続けており、その漁獲高も急激
に減っています。

海女漁業については、高齢化
や後継者不足、アワビなどの餌
となる海藻の減少など、課題が
多く、改善には至っていません。
水産振興の立場から、県とし
て海女漁業の振興に対してどの
ように取り組んでいるのか、お
聞かせください。

答

県では、アワビ稚貝の
放流効果を向上させるマ
ニユアルの普及や、藻場の造成、
海女になりたい人
を対象にした研修
への支援などを行
っています。

今後さらに、放
流するアワビ稚貝
の大型化や、海女
の漁獲物の高付加価値化などを
行い、伝統ある海女漁業を未来
へ伝えていけるよう努めていき
ます。



豊漁祈願行事に参加する海女たち

その他の質問事項
○遷宮後の地域振興 ほか

オープンデータやビッグデータ による産業活性化の可能性

水谷 正美 議員
(新政みえ／四日市市選出)



問

他県では、公共工事の
地質データなどを②オープ
ンデータ化し、企業の建設計画
が加速した事例や、カーナビに
よる急ブレーキ発生
地点の膨大な記録を
官民で解析し、安全
対策に活用した事例
などがあります。個
人情報保護や膨大な
データを解析するデータサイエ
ンティスト養成の重要性も踏ま
え、本県でもオープンデータ化
や③ビッグデータの活用を進める
べきではないですか。



答

産学官連携による協議
会を設立し、観光客の行
動履歴情報などの分析による周
遊ルートなど観光客向けサービ
スや、健康診断データを活用し
た出産・子育てなどのライフス
テージに即したサービス提供な
どのビジネスモデルを検討して
おり、今後、プロジェクト化す
ることで、新たなビジネス創出
を図ります。

その他の質問事項
○TPP交渉と遺伝子組み換え
食品 ほか

沖縄県宮平和祈念公園内の
「三重の塔」の修復を

小野 欽市 議員
(自民みらい/津市選出)



問

昨年、知事は沖縄県糸満市にある「④三重の塔」を参拝されましたが、私もこれまで、子どもたちをつれて、戦争の悲惨さや平和の尊さを教える研修に参加するなど、お参りしてきました。

平成27年には、終戦70周年とともに塔の建立50周年を迎えますが、ご遺族が少なくなる中、この時期を考え、塔の修復・整備について、検討してはどうかと思いますが、いかがですか。

答

「三重の塔」については、これまで休憩場所の建設やバリアフリー化工事を行い、整備を図ってきましたが、設置から48年がたち、一部に劣化が見られることから、改めて現地の状況を確認し、関係者のご意見もお聞きしながら、補修などの必要性について検討していきたいと考えています。



三重の塔

○その他の質問事項
雇用の拡大支援 改善策は
ほか

少子化対策推進県民運動は
価値観の押し付けにならないか

三谷 哲央 議員
(新政みえ/桑名市・桑名郡選出)



問

少子化対策は、「当事者目線」で進めることが重要です。しかし、三重県地域少子化対策強化計画には、県民は少子化対策を理解しているが、対応は諸外国に比べると非常に低いレベルなので、「県民総ぐるみ」で行う必要があると読み取れる記載があり、このような「上から目線」で行われる県民運動では、価値観の押し付けにならないか心配です。いかがお考えですか。



答

計画で「県民総ぐるみ」として進めるのは、当事者の状況に合わせてきめ細かく対応するには、多くの方のご協力が必要なのだと思います。県民運動については、各主体代表からの押し付けとならないように、さまざまなご意見があることを十分に配慮したうえで、啓発活動を進めていただけるよう取り組めます。

○ミラノ国際博覧会への出展と「みえ国際展開に関する基本方針」ほか

教育委員会制度の
改革

奥野 英介 議員
(鷹山/伊勢市選出)



問

首長の権限を大きくする教育委員会制度改革が政府与党で議論されていますが、実行するのは県と市町であり、自治体为主体であることを理解したうえで改革されるのが望ましいと考えます。知事の思いをお聞かせください。

答

政治的中立性・継続性・安定性への配慮のもと、教育行政の責任の明確化や透明化が図られることが重要であり、また、地方分権の観点から、国の関与を最小限にするべきと考えています。

孤立が想定される地区への
周知・啓発を

今井 智広 議員
(公明党/津市選出)



問

県内には、災害時に孤立が想定される地区が394地区あるとのことですが、これらの地区の住民には、日常から水・食料の備蓄などの備えを万全にするよう、丁寧な周知・啓発が重要と考えますが、いかがですか。

答

住民に孤立想定地区との認識を持っていただいたうえで、自力で生き延びるための日頃の備えの大切さを、市町や自主防災組織の協力も得ながら、直接的に訴えかけることも検討していきます。

用語解説

1 パーク・アンド・バスライド

都市部や観光地などの交通渋滞の緩和のため、郊外などに設けた駐車場に自家用車を駐車し、そこから公共交通機関であるバスを利用して目的地に向かう仕組みのこと。

2 オープンデータ

公共データなどを、コンピューターなどで読み取れる形式で、著作権や特許などの規制を受けずに利用できるルールにより公開されたデータで、二次利用が可能なもの。

3 ビッグデータ

インターネットの普及や、コンピューターの処理速度の向上などに伴い生成される、大容量のデジタルデータのこと。

4 三重の塔

沖縄県糸満市の平和祈念公園内にある慰霊塔で、昭和40年6月に県が設置したもの。沖縄や南方諸地域で戦没した本県出身者約五万三千人が祀られている。

本会議審議の結果

議案の概要、議員別の賛否等の状況などの審議結果や、請願・意見書・陳情の内容は、県議会ホームページの「本会議」からご覧いただけます。
(1月から3月)

可決した議員提出議案

- 三重県食の安全・安心の確保に関する条例の一部を改正する条例案
- 三重県政務活動費の交付に関する条例の一部を改正する条例案

可決した議案

- 予算
- 平成26年度三重県一般会計予算
- 平成25年度三重県一般会計補正予算(第7号)
- ほか34件
- 条例
- 三重県農地中間管理事業等推進基金条例案
- 三重県債権の管理及び私債権の徴収に関する条例案
- 三重県がん対策推進条例案
- 三重県中小企業・小規模企業振興条例案

○三重県いじめ問題対策連絡協議会条例案 ほか70件

その他議案

○包括外部監査契約についてほか12件

人事案件(同意)

○収用委員会委員の選任につき同意を得るについて

採択した請願

○TPP(環太平洋連携協定)交渉について

可決した意見書

- TPP(環太平洋パートナーシップ)協定交渉に関する意見書
- 安定的な雇用と公正な処遇の下で安心して働くことができる環境整備を求める意見書
- 公務員獣医師の処遇改善を求める意見書

提出された陳情

- 国民の安全・安心の実現へ建設産業の再生を求めることについて
- 住民の安全・安心を支える国土交通行政の体制・機能の充実を求めることについて

〔議員提出条例〕 三重県食の安全・安心の確保に関する条例の改正

県議会では、平成20年に、県内をはじめ全国各地で発生した食品表示に関する問題などにより、食に対する県民の不信感が高まったことから、「三重県食の安全・安心の確保に関する条例」を議員提出条例として制定しました。

しかし、昨年の秋以降、米穀の産地偽装及び食材の不適切表示が明らかとなり、食に対する県民の信頼が再び揺らぐこととなりました。

このようなことから、昨年11月、本条例の調査及び検討を行うことを目的として検討会を設置し、6回の会議やパブリックコメントなどを経て、一部改正案を取りまとめました。

主な改正内容としては、再発防止対策として、食品関連事業者の責務に「法令遵守意識の向上」、「法令知識の習得」、「事業活動の適正の確保」を盛り込み、また、事業者団体の役割を新設するなどしました。

この一部改正案は、2月に議員提出議案として提出され、3月に全会一致で可決されました。

会議の開催状況(会議の様子は、一部を除き県議会ホームページの「議会中継」からご覧いただけます。)

1月

■17日
本会議(開会)
各常任委員会(戦略企画雇用経済、健康福祉病院、防災県土整備企業)
所管事項の調査
予算決算常任委員会環境生活農林水産分科会
所管事項の調査
■29日
「実は、ぜんぶ三重なんです!」連携調査特別委員会
委員長報告案について

2月

■3日
防災県土整備企業常任委員会
所管事項の調査
■12日
「実は、ぜんぶ三重なんです!」連携調査特別委員会
委員長報告案の確認について

■17日
本会議(2月定例会議)
議案102件上程
■21日
本会議
代表質問(2人)、議案に関する質疑(7人)
戦略企画雇用経済常任委員会・分科会
議案の審査、請願の審査
予算決算常任委員会各分科会(総務地域連携、環境生活農林水産、健康福祉病院、防災県土整備企業)
議案の審査等
■25日
本会議
一般質問(5人)、議案3件可決、請願1件採択、意見書案1件上程・可決
選挙区調査特別委員会

三重県議会議員の選挙区及び定数について
■27日
本会議
一般質問(4人)
■28日
本会議
議案19件上程、議提議案1件上程
選挙区調査特別委員会
三重県議会議員の選挙区及び定数について

3月

■5日
本会議
一般質問(4人)
■6日
予算決算常任委員会
予算案及び予算関連議案にかかる総括質疑
■7日~13日
各常任委員会・分科会
議案の審査、所管事項の調査

■17日
環境生活農林水産常任委員会・分科会
議案の審査等
予算決算常任委員会
議案の審査
■18日
防災県土整備企業常任委員会
所管事項の調査
■19日
本会議
議案118件可決、議提議案1件可決、意見書案2件上程・可決、議提議案1件上程・可決、人事同意議案1件上程・同意
■31日
本会議(3月会議)
議案3件上程・可決
予算決算常任委員会各分科会(総務地域連携、環境生活農林水産)
議案の審査等
予算決算常任委員会
議案の審査

※この他にも、議会運営委員会、代表者会議、全員協議会、議案聴取会、広聴広報会議、委員長会議、三重県食の安全・安心の確保に関する条例検証検討会、議会改革推進会議役員会など、さまざまな会議を開催しています。

観光産業に関わる方と 現場で意見交換 ～みえ現場de県議会～

県議会では、多様な県民の意見を県議会での議論に反映させるため、「みえ現場de県議会」を開催しています。

2月7日には、伊賀市で「観光産業の振興」をテーマに開催しました。観光産業に関わる方11人と、県議会議員13人が参加し、観光産業における現状や課題などについて、活発な意見交換が行われました。

参加者からは、次のような意見がありました。

観光の魅力、観光資源とは何か

- ・ 忍者修行の体験など、地域の歴史文化などを生かして観光につなげることが大事。
- ・ 地域の人たちが観光客に道を教えるだけでもおもてなしになる。地域の人が持つ魅力や資源と考えると、やがてその人に会いに行くのが観光の目的となっていく。
- ・ 体験型や癒し、人とのふれあいや出会い、これをいかに的確につかみ、お客に好印象を与えるかに尽きる。

地域の魅力をつなぐさまざまな連携を

- ・ 同じツールを持っているところと連携し、お客が回遊できるとよい。
- ・ 三重県は食べ物の魅力が大きく、政策推進の際に農林水産と観光の部門が情報を共有しないと無駄がある。
- ・ 全国イベントを開催する際に、市役所の調整で他の地域イベントと同時開催にできた。県や市に求められるのはコーディネート力。

地域の魅力をどう発信し、続けていくか

- ・ 企画は、受け入れられる規模で丁寧に対応することで、リピーターになってもらえる。
- ・ 強いものからアピールするのが民間の発想だが、行政だとバランス重視で名所が全て入ったパンフレットを作ったりしてしまふ。行政が関わると、観光というものは難しくなることもある。
- ・ 自分たちが情報発信する場を作ってほしい。
- ・ 市町をまたぐものや、海外への情報発信は、県が率先してやっていくべき。

このほかにも、幅広い意見が数多く出されました。いただきましたご意見は、今後、議会での議論に反映させていただきます。



政務活動費に関する 条例を改正しました

「三重県政務活動費の交付に関する条例」の一部を改正し、平成26年4月1日から現在の議員の任期が満了する平成27年4月29日までの間に交付される政務活動費を、平成23年7月から実施している減額措置と同様に、条例本則の額よりも20%特例的に減額する措置を規定しました。

災害に強いまちづくりに ついて、活発に意見交換 ～第4回政策セミナー～

県議会では、現場感覚で政策議論を充実させるために、地域が抱える課題をテーマに設定し、全議員を対象にした「政策セミナー」を開催しています。

3月17日には、鈴鹿市で災害に強いまちづくりに取り組んでおられるNPO法人「災害ボランティアネットワーク鈴鹿」の南部美智代理理事長に「向こう三軒両隣皆で助け合うために」と題し、地域における防災活動のリーダーとしての、また、災害ボランティア活動の実践者としての経験をお話いただきました。

講演は、議員への「あなたが考える自助とは何ですか」との問いかけから始まり、被災地における災害ボランティアの実情や、江戸時代の大津波被害と近隣の人々の助け合いの大切さを描いた紙芝居の紹介など、さまざまな視点から防災・減災対策が語られました。

広域的課題について意見交換 ～東海北陸7県議会議長会議～

1月28日、鳥羽市において、愛知県、静岡県、岐阜県、富山県、石川県、福井県および三重県の各議長と副議長が一堂に会し、東海北陸7県議会議長会議を開催しました。

会議では、基幹的広域防災拠点の早期整備などを求める「南海トラフ地震対策の推進について」など10件の議案を議決し、国に対して要望を行うことを決めました。

また、各県議会の交流を深めるため、広域的課題である観光振興について、従来から海外誘客に積極的に取り組まれている株式会社御木本真珠島取締役の柴原昇氏をお招きし、ご講演をいただきました。講演では、これまでのご自身の経験をお話し、台湾をはじめとするアジアからの誘客の今後の展望などについてお話しいただきました。



小学校で授業を行いました ～みえ県議会出前講座～

県議会では、県議会をより身近に感じていただき、将来の住民自治を担う意識の醸成に寄与することを目的に、県議会議員が小中学校や高等学校に出向いて授業を行っています。授業では、県議会の役割や仕組みなどについて、県議会を紹介するDVD映像を交えて説明を行っています。

1月に訪れた、松阪市立中川小学校では、「新博物館には何が展示されますか」「議員バッジの形は」等の質問が、大紀町立七保小学校では、「子どもでも議会は見られますか」「選挙で得票数が同じ人がいたときはどのように決めますか」などの質問が積極的に出され、それぞれ、議員が説明しました。

今後も、各学校からのお申し込みをお待ちしています。



七保小学校での授業の様子

平成26年三重県議会定例会の日程

三重県議会の会期は通年制となっています。5月から6月までの日程は次のとおりです。

- | | |
|-------------|---------------|
| 5月 9日 | 代表者会議、議会運営委員会 |
| 13日～15日 | 代表者会議 |
| 16日 | 本会議(役員改選) |
| 20日 | 代表者会議 |
| 22日、23日、26日 | 各常任委員会 |
| 27日 | 議会運営委員会 |
| 6月 3日 | 本会議(議案上程) |
| 6日 | 議案質疑 |
| 9日、11日、13日 | 本会議(一般質問) |
| 17日～20日 | 各常任委員会 |
| 25日 | 予算決算常任委員会 |
| 26日 | 代表者会議、議会運営委員会 |
| 27日 | 本会議(採決) |

この日程は、平成26年3月20日現在の予定です。最新の情報は、ホームページテレビのデータ放送でご確認ください。

TV テレビ中継 インターネット中継

編集 三重県議会広聴広報会議

座長 前田 剛志 (副議長)
委員 下野 幸助 小島 智子 後藤 健一
栗野 仁博 石田 成生 村林 聡勇
大久保孝栄 今井 智広 中西

問い合わせ窓口

〒514-8570 津市広明町 13
三重県議会事務局企画法務課
☎059(224)2877 ☎059(229)1931
✉gikaik@pref.mie.jp
🌐<http://www.pref.mie.lg.jp/KENGIKAI/>



議会の窓

「みえ高校生県議会」のご案内

高校生の議会への関心を高めるとともに、高校生の意見を聴き、議会での議論に反映していくため、「みえ高校生県議会」を開催します。当日は傍聴ができるほか、インターネット中継も行います。ぜひご覧ください。

◇開催日 平成26年8月20日(水)
◇場所 三重県議会議事堂
◇内容 高校生が議場で質問し、県議会議員が答えます。

テレビでのデータ放送のご案内

4月から、「みえ県議会だより」のデータ放送を行っています。最新の情報を、テレビの放送時間内は、いつでも見ていただけますので、ぜひご覧ください。テレビのチャンネルを三重テレビ(7ch)に合わせ、リモコンの「d」ボタンを押してください。データ放送のトップ画面が表示されましたら、メニューから、「みえ県議会だより」を矢印キーで選択し、「決定」ボタンを押してください。(画面切り替えに時間がかかることがあります。)

次回の発行は、平成26年(2014年)7月1日です。